

第13回「福祉・環境のまち部会」 会議録

1 開催日 平成29年6月26日（月）9：30～

2 場所 新見市役所 第5委員会室

3 出席状況 出席8名

部会長	上前 文昭	出席	副部会長	西田 勝江	出席
委員	大月 礼子	出席	委員	早瀬 正弘	出席
委員	宮地 恵子	出席	委員	栗本 真吾	出席
委員	鈴江 恵子	出席	委員	前田 道子	出席

4 事務局出席者

総務部協働推進課 2名

5 傍聴者

なし

6 議事内容

1 開会

2 あいさつ

部会長挨拶

3 協議

（事務局から）

会議冒頭、6月市議会で答弁があった「自主防災組織」に関する新聞記事の資料を各委員へ提供し、補足説明などを実施。

-
- ・日頃から“命を守る”活動が大切だと思っている。小さな組織でもできる活動について、何か提言ができればと考えている。
 - ・市の防災計画を見たが、専門的に作られていた。自主防災組織は市内で約7割の組織率であるとのことだったが、やはり、まずは各地域で組織を設立し、その後、活動内容の充実について考え、提言するということの方が重要ではないかと思っている。そのため、まずは組織率100%に向けて行政に取り組んでもらう方が大切ではないだろうか。
 - ・防災に関する提言といつても、ごく一部に関する提言でも良いのではと思う。防災計画はあるが、その内容に基づいて市民もすぐに行動できるかといったことに関し、疑問に思う点もある。

- ・計画全体のことについて提言ということは難しいと思うが、その一部でも何か提言できれば、市民へのPR・周知につながるのではと考えているところである。
- ・大きなテーマでは提言は難しいと思うので、いくらか絞らないといけないと思う。昨年は福祉で提言したし、防災について何か提言できればと考えている。特に他市ではどのような防災訓練をしているのかなど、そのような内容を自主防災組織への活動に落とし込むということが必要ではないか。また意見が出たが、他国からのミサイル攻撃などについても、国が対応するものだと思うが、市から国へそうした危機への対応についても、要望などをしてもらうということで、市民が考えるきっかけになるのかもしれないと思う。
- ・細かいテーマを決めてから内容を考える方法が良いのではと思う。自主防災組織を考えてみても、実際に何か起きた場合に、きちんと避難場所を把握していて、その場へ行けるかが重要。知っていて、かつ、実際に動けるか。どういった方法で市民に周知するかが必要だと思う。それと、テーマを2つにして提言するという考え方もあるが、時間的に難しい。
- ・やはり市民にとっては、いくら防災計画があっても、その内容を知らないということが大きいのではないだろうか。それと気になっていることとして、学校が避難所になっていることが多いが、現在は廃校になっていて、(訓練を行う際に)中に入れないということも起きたことがある。そうした場合、鍵はどこにあって誰が解錠するのかといったことも気になっている。
- ・学校でも教員に防災士の資格を有する者の配置ということが考えられている状況ではある。
- ・身近なところで、どのように啓発するかがポイントになるのかなと思う。防災については、家族単位での啓発といったことも重要。
- ・無関心ということがやはり良くない。みんなが関心を持ってくれるような方法が必要だと思う。告知放送を使うなど、各地区ごとに避難場所の周知を図るといったようなことが必要なのだと思う。
- ・地域としてどのように対応するかということが必要だと思う。市や自主防災組織ではできないこともあるのではないかと思う。地域で助け合うということの重要性について、最近特に感じ始めている。
- ・防災に关心を持つてもらえるような提言になればと考えている。